

パネルディスカッション B
オープンイノベーションに資す
る国際産学連携
～B1イノベーション創出のた
めの海外展開

モデレータ

早稲田大学理工学術院教授 橋本正洋



イノベーション創出のための 海外展開とは

- * イノベーションの実現には、「価値創造」だけでなく、「価値獲得」が重要。(延岡健太郎「MOT入門」参照)

日本企業は、技術力に加え、事業創成力もある、つまり、「価値創造」能力があるはず。「この時代」に来て、なぜ日本企業が「事業で負ける」=「価値獲得」できないのか？

イノベーション創出のための 海外展開とは

「この時代」とは？

- * 現代は大企業だけでなく、中小企業、ベンチャーも「グローバル経営」時代。
- * 知の活用も、グローバル化が進展。グローバルなオープンイノベーションは必然的。
- * オープンイノベーションのための産学連携は、グローバルに進めるべき。
- * 否、この時代は、グローバルを超えて、「ボーダレス経営時代」ととらえるべきでないか。

ボーダレス経営時代の産学連携に必要なことは？

「価値獲得」のためには、

- * 今ある、また将来得られる「優れた知の種」を前提に、これをインキュベートして「知的財産ストック」を形成するプロセスを強化すること、
- * 「知的財産ストックの経済価値への変換」＝「価値獲得」を強く意識したプロジェクトマネジメントと知的財産マネジメントの強化（知財と標準化の統合されたマネジメント）

が重要ではないか。



ボーダレス経営時代の産学官連携について、大学において必要なことは

大学セクターにおいては、具体的には以下の機能強化が重要ではないか。

- * 「夢を追う」前例がないシードを目利きし選択する機能
- * 「横連携=組織力を活かす」複数セクターとの協力機能
- * 「産官との連携」選択したシードに対する研究資金の誘引機能
- * 「ビジネスマインド」グローバルに特定市場を想定した事業化・知財・研究開発シナリオを作成する機能
- * 「スピード感」以上を、ガバナンスを得つつスピード感をもって達成する機能



ボーダレス経営時代の産学官連携に 関して、企業側に必要なことは

企業側においては、以下の経営努力が重要ではないか。

- * 個々の国・地域の状況、制度、マーケティングに関する特徴の情報を把握し活用するグローバル・ボーダレス経営化
- * 日本及び海外の大学で生まれるシーズへのアクセス強化
- * 日本国内におけるイノベーション・エコシステム形成に対する積極関与特に大学発ベンチャーへの積極関与



パネルディスカッションの狙い

これらの問題意識のもとに、以下のメッセージを発するパネル討論にしたいと考えます。

- * 日本がこれまで進めてきた「国際的な産学連携・知財活動」の取り組みの現状到達点と課題を具体事例に基づいて浮き彫りにする。
- * これにより、オープンイノベーションと知的財産戦略のあり方を示す。
- * そして、「ボーダレス経営時代の産学官連携」の新しい姿を見つけていく。



登壇者ご紹介

パネリスト

* 山本 貴史

株式会社東京大学TLO 代表取締役社長 兼 CEO

* 久保 浩三

奈良先端科学技術大学院大学 産官学連携推進本部副本部長・教授

* 西田 健一

第一三共株式会社 研究開発企画部CIグループ長

コメンテーター

* 山本 佳世子

日刊工業新聞社 論説委員 兼 編集局科学技術部編集委員

